川越市初雁公園基本計画(素案)概要

目 次

| 1. 計画の目的と背景 | 1 |
|-------------------------------|----|
| 1-1. 計画の目的 | 1 |
| 1-2. 計画の背景 | 1 |
| 1-3. 用語の整理 | 1 |
| 1-4. 川越城址整備検討範囲と初雁公園整備区域 | 2 |
| 1-5. 計画の進め方 | 2 |
| 2. 前提条件の整理と検討課題の抽出 | 3 |
| 2-1.「史跡川越城跡」の本質的価値と文化財保護のあり方 | 3 |
| 2-2.「史跡川越城跡」の本質的価値を構成する要素等の所在 | 4 |
| 2-3. 前提条件の整理と検討課題の抽出 | 5 |
| 3. 川越城址整備の基本的考え方 | 6 |
| 3-1. 川越城址整備の基本的考え方 | 6 |
| 3-2. 歴史拠点としての城址公園 | 6 |
| 3-3. 観光拠点としての城址公園 | 7 |
| 4. 初雁公園整備基本計画 | 8 |
| 4-1. 初雁公園整備基本方針と整備コンセプト | 8 |
| 4-2. 初雁公園利活用計画 | 8 |
| 4-3. 初雁公園遺構等の保存活用の区分 | 9 |
| 4-4. 初雁公園整備基本計画 | 10 |
| 4-5. 初雁公園運営·維持管理方針 | 16 |
| 5. 初雁公園及び川越城址の段階的整備 | 17 |
| | |

1. 計画の目的と背景

1-1. 計画の目的

本計画は、初雁公園について、川越城址に位置する公園として、歴史的遺産を活用した川越市の歴史拠点と新たな観光拠点等として整備するために、平成元年に策定した「初雁公園整備基本構想」をもとに、実現可能な計画に見直すことを目的とする。

1-2. 計画の背景

初雁公園は平成元年に「初雁公園整備基本構想」を策定しているため、計画の背景としてその概要を整理 する。

平成元年策定「初雁公園整備基本構想」概要

■ 整備計画の目標

- 1) 初雁公園の将来像として、慶応3年頃の川越城の範囲(東西約800m、南北約500mの約40ha) のうち、与条件面積(13.56ha)について史実を出来る限り忠実に具現し、城址公園として整備する。
- 2) 整備計画は市制 100 周年(2022 年) を目途とし、平成元年から各ゾーンにわけ事業化を図っていく。
- 3)市内に存する他の文化財(例:喜多院、蔵造りの街並等)とのネットワーク化をはかり歴史色のある"まち"川越としてとらえていく。



1-3. 用語の整理

川越市初雁公園基本計画で使用する用語の整理は以下のとおりである。

■ 用語の整理

史跡川越城跡:埼玉県指定文化財として指定されている名称

川越城址:川越城の跡地の通称(史跡川越城跡とほぼ同義)

城址公園: 史跡川越城跡のうち遺構を顕在化し、見学ルート等で巡れるようにする地域的なエリ

アで概念として示したもの

初雁公園:都市計画決定された現公園で、都市公園法に基づく公園の名称

歴史公園:都市公園の種別の一つ(特殊公園の一つの類型で、史跡の保存・活用により歴史の継

承を目的として設置される公園)

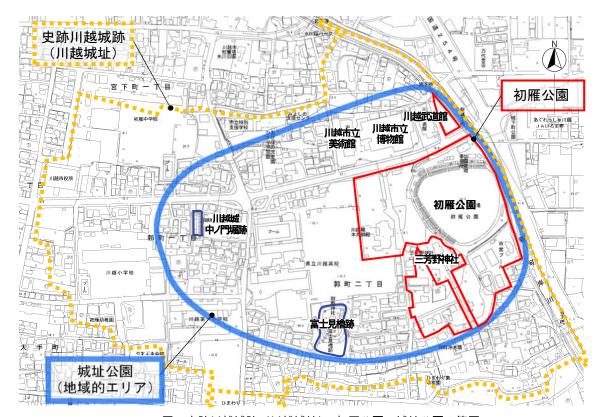


図 史跡川越城跡 (川越城址)、初雁公園、城址公園の範囲

1-4. 川越城址整備検討範囲と初雁公園整備区域

「初雁公園整備基本構想」の見直しにあたり川越城址全体を整備検討範囲とし、その範囲は史跡川越城跡の区域(約40ha)とする。また、初雁公園として整備する区域は、初雁公園告示区域(約4.5ha)と区域南側の市所有地及び市有地取得予定地を含む範囲とする。

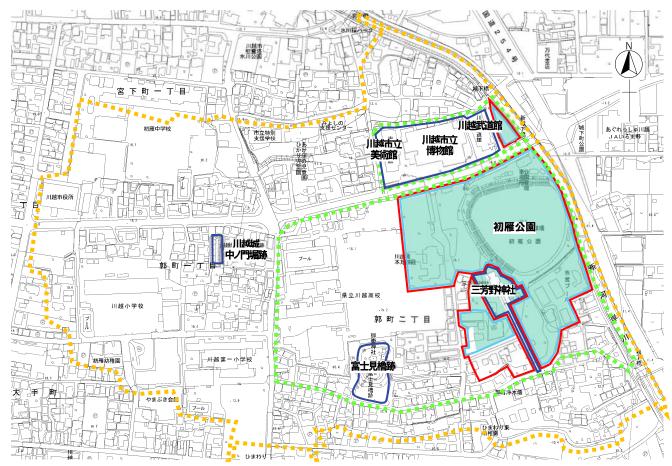


図 川越城址整備検討範囲、初雁公園整備区域及び周辺区域



1-5. 計画の進め方

本計画は「初雁公園整備基本構想」の見直しにあたり、まず川越城址全体を整備検討範囲とし、川越城址整備の基本的考え方を整理した。次に、川越城址整備の基本的考え方を踏まえ初雁公園整備区域を対象範囲とし、初雁公園整備基本計画を検討した。

計画の目的と背景



前提条件の整理と検討課題の抽出



川越城址整備の基本的考え方整理

:川越城址整備検討範囲(史跡川越城跡)を対象 とし、川越城址整備の基本的考え方と初雁公園 の位置付けを整理する。



初雁公園整備基本計画検討

初雁公園整備区域を対象とし、上記位置付けをもとに、初雁公園整備基本計画を検討する。



初雁公園及び川越城址の 段階的整備整理

2. 前提条件の整理と検討課題の抽出

2-1、「史跡川越城跡」の本質的価値と文化財保護のあり方

「史跡川越城跡」の本質的価値(史跡指定に値すると評価される価値)、「史跡川越城跡」の本質的価値を 構成する要素及び「史跡川越城跡」における保護のあり方は以下のとおりである。

(1)「史跡川越城跡」の本質的価値

川越城は、関東の戦国時代の中心的な城の一つであり、埼玉県を代表する近世城郭でもある。旧城内に は往時の姿を留める遺構が遺存しており、貴重な城郭遺構群として評価することができる。

その文化財的価値としては、下記の4点が挙げられる。

- 中世から近世に至る城の遺構が、良好な状態で地上および地中に遺存していること
- 城の鎮守としての三芳野神社と社叢・参道及び周辺の土塁群に城址としての景観を留めていること
- 国内に2例のみ現存する本丸御殿が史跡内に残っていること
- 城及び城下町の絵図に記された筆割等が現在でも残っていること

(2)「史跡川越城跡」の本質的価値を構成する要素

1) 遺構·遺物

2) その他

1 本丸御殿

4中ノ門堀跡

① 地形

② 土塁(地上)

⑤三芳野神社

② 地割

③ 堀跡(地上・地中) ⑥旧川越城内建物 ③ 道路(絵図等に描かれていて現存するもの)

4 景観

(3)「史跡川越城跡」における文化財保護のあり方

1) 現状を変更する行為に関すること

① 現状の保存

文化財保護の基本的精神に鑑み、指定された状態を維持・保存する。

② 保護・補強措置の実施

特に地上に残された遺構(土塁等)が崩壊・崩落等のおそれがある場合には、必要な保護・補強措 置をとるものとする。

③ 旧状の復元

旧状を復元する場合、古文書・古記録等の記載のみでなく、古図・絵図等に記された資料に基づき、 かつ発掘調査等の成果を踏まえたもので、古建築等を専門とする学識者等により適正な復元として示 されたものとする。

4 新設建物の制限

史跡範囲内であることに鑑み、既存施設についてはその転用を検討するものとし、新規設置につい ては十分な検討を行い、発掘調査等の成果をもって事業を進める。

⑤ 樹木等

既存樹木については、原則として維持するものとするが城址の景観に影響を与えるもの、生育状況 が不良なもの等は伐採するものとする。新規の植樹については、原則的に不可とするが、樹高2m未 満のものは特別の事情がある場合においては可とする。

2) 史跡の活用に関すること

文化財としての史跡川越城跡に広く理解を得られるよう、遺構の顕在化や歴史と自然の調和した風致 の保全などその活用を検討する。

尚、慶応3年(1867)頃の川越城図は、縄張(曲輪や堀、門等の配置が示された城の全体像)や城 内の建物の様子を大変詳細に描いており、本絵図に描かれた川越城の姿が、現在、近世城郭として完成 した川越城の基準となっている。松平斉典の天保 12 年(1841)に川越藩最大の石高 17 万石となり、 この石高は慶応2年(1866)まで続き、また、嘉永元年(1848)に巨大な御殿建築である本丸御殿 を完成させた。このことからも慶応3年(1867)頃の川越城図を川越城の基準とすることは妥当であ ると考える。

また、本計画では、下図の現況図との重ね合わせ図をもとに検討を行っている。



図 川越城図 川越市立中央図書館蔵

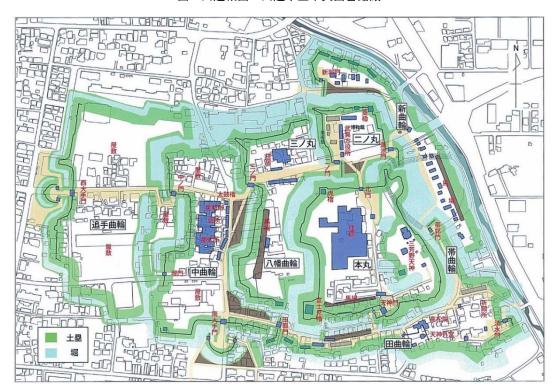


図 川越城図をもとにした現況図との重ね図 出典:「川越城」一描かれた城絵図の世界一川越市立博物館 ※平成18年3月作成の「川越市都市計画基本図14」に細部を調整のうえ、投影したもの

2-2.「史跡川越城跡」の本質的価値を構成する要素等の所在

「史跡川越城跡」の本質的価値を構成する要素の地上遺構と道路形状等が、昔のものと想定される痕跡等について、「史跡川越城跡」全体と初雁公園内について抽出すると以下のとおりである。

■「史跡川越城跡」の本質的価値を構成する要素等の所在

第 17 次発掘調査 大手門北側にあたる弧を 描く土塁の痕跡が見つかっ ている。また、北側には近 世以前の堀も確認された。

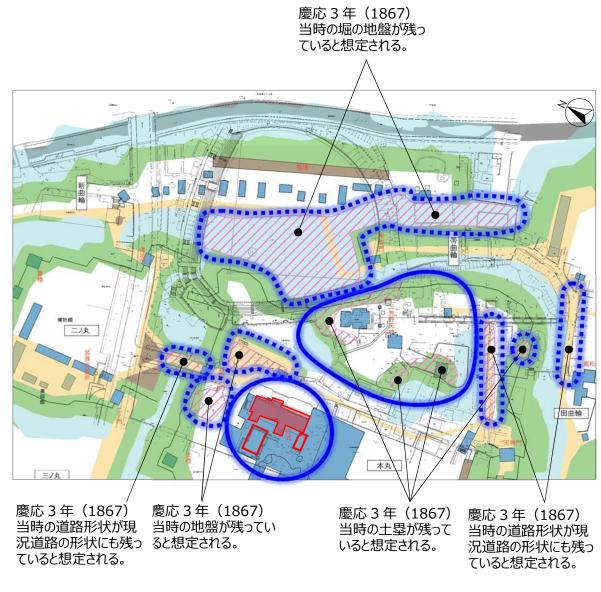
20年(2008)に 整備。

中ノ門堀跡が平成 第13次発掘調査 後北条氏時代につくられた 堀をていねいに埋め立てて、 近世の堀をつくり直している 事がわかった。

二ノ丸跡発掘調査 堀跡が検出されており、 焼土の入れられた井戸跡 が多く見つかっている。

第11次発掘調査 江戸時代に造成され た新曲輪の下に後北 条氏時代の堀が埋め られていた。

■ 初雁公園内での「史跡川越城跡」の本質的価値を構成する要素等の所在



本質的価値を構成する要素の地上遺構 本質的価値を構成する要素の地上痕跡(想定) 発掘調査箇所

永加接石 川越市 慰霊塔 氷川公園 -000 宮下町一丁目 あぐれっしゅ川 要はしの B JAいるま野 三ノ丸 追手曲輪 八幡曲輪 川越小学校 0 III O CO 初雁幼稚園 やまぶき 家老詰所は昭和 62 年 慶応3年(1867) 本丸御殿のうち創建時の 富士見櫓跡は平成 11 慶応3年(1867) 当時の道路形状が現 (1987) に発見、昭和 嘉永元年(1848)から ~16年(1999~ 当時の道路形状が現 況道路の形状にも残っ 2004) に調査設計。 63~平成元年(1988~ 残る建物。 況道路の形状にも残っ ていると想定される。 1989) に移築。 ていると想定される。

明治初期の明治棟

図 慶応3年(1867)頃の川越城図と現況図の重ね図

2-3. 前提条件の整理と検討課題の抽出

前提条件の整理として、「第4次川越市総合計画などの上位関連計画でのとらえ方」、「環境特性」、「川越城、城下町と舟運の歴史」、「史跡川越城跡及び初雁公園の近現代の歴史的役割」及び「現況の課題」をまとめた。 また、前提条件の整理を踏まえて、「史跡川越城跡と城址公園のとらえ方と初雁公園の位置付けにかかわる課題」と、「初雁公園の整備にかかわる課題」を抽出した。その内容は以下のとおりである。

前提条件の整理

上位関連計画でのとらえ方のまとめ

- ○川越城富士見櫓跡を含む川越城址については、城址公園としての整備を検討する。
- ○城址公園を観光や教育の場として活用することを検討する。
- ○初雁公園を含む川越城址一帯を、中心市街地の歴史的文化的遺産とつなぐ快適な歩行者空間の形成を図る。
- ○初雁公園や仙波河岸史跡公園の充実など、川越の歴史を活かした市民が誇れる公園づくりを進める。

□自然的環境

環境特性のまとめ

- ○川越城は武蔵野台地の北東端に築かれ、低地に接する地形を地盤とした城址が都市公園となっている。
- □社会的環境
- ○広域からのアクセスが良好で、川越まつりや蔵造りの町並みなどに 700 万人を超える観光客が訪れる一方、川越市の人口は 35 万人で少子高齢化が進みつつある。
- ○市内の都市公園は318箇所、165.1ha、市民1人当たり4.7㎡で、歴史公園が3箇所整備されている。
- □歴史的環境
- ○河越氏による河越館の時代、川越藩による川越城の時代、及び蔵造りの町並みの時代に概ね区分される。
- ○江戸城北辺の守りの地であり、豊富な物資の供給地として重要であった。
- ○川越藩主松平信綱は、城下町の町割、川越街道、新河岸川舟運、新田開発など川越の都市の基盤を作った。
- □景観特性
- ○随所に歴史的景観の要素が見られ、多様な自然的景観要素にも恵まれている。

川越城、城下町と舟運の歴史のまとめ

□川越城

- ○扇谷上杉氏の命により、長禄元年(1457)、太田資清・資長(道真・道灌)らが城を築いた。
- ○川越藩主松平信綱は、慶安3年(1650)から明暦2年(1656)頃までに本格的に城の改修を行った。
- ○川越藩主松平斉典の時代の天保 12 年(1841)に石高 17 万石となり嘉永元年(1848)に本丸御殿を完成させた。17 万石の石高は松平直克の時代の慶応 2 年(1866)まで続いた。
- □城下町
- ○城下町の町割は川越藩主松平信綱により慶安年間(1648~52)に定められ、その後武家地は時代によって拡大している。
- ○川越藩主松平信綱は、慶安年間(1648~52)に河岸場を取り立て、次第に川越石河岸が成立し、城下の繁栄を支えた。

史跡川越城跡及び初雁公園の近現代の歴史的役割

□史跡川越城跡

- ○川越城本丸御殿は官公庁、中学校、煙草工場、初雁武徳殿など様々に活用されてきた。
- ○史跡川越城跡には庁舎、学校、文化施設の他初雁公園が整備され、川越市の近現代の中枢を担ってきた。
- 口初雁公園
- ○都市計画公園の第1号として、県下最大の運動公園として戦後復興を牽引してきた。

現況の課題まとめ

口歴史遺構の課題

- ○川越城址全体が史跡となっているため、初雁公園の整備には制約が大きく、富士見櫓跡の復元についても地盤が 削られ、制約が大きい。
- ○川越城址の歴史遺構が点在しているが十分に活用されておらず、城址の雰囲気が感じられない。
- 口敷地条件の課題
- ○初雁公園区域外は、民地、川越高等学校用地等で基本構想の実現が困難となっている。
- 口公園利用の課題
- ○川越城本丸御殿には年間 13~15 万人が入館している一方で、野球場の施設が老朽化し、市営プールも施設の老朽化と利用者数が減少している。
- 口周辺区域の施設利用の課題
- ○川越市立博物館には年間 10 万人弱入館している。また、川越武道館は耐震工事を行うため、今後 15 年程度は利用可能だが 15 年以降の方針検討が必要である。

検討課題の抽出

史跡川越城跡と城址公園のとらえ方と初雁公園の位置付けにかかわる課題

- 1. 史跡川越城跡の本質的価値の理解と史跡の維持・向上の基本方針の確認
- 史跡川越城跡の本質的価値を理解し、現状変更に伴う史跡の維持・向上の基本方針を確認する必要がある。
- 2. 史跡川越城跡と城址公園のとらえ方の整理
 - 上位関連計画、環境特性、川越城・城下町と舟運の歴史及び史跡川越城跡と初雁 公園の近現代の歴史的役割から、史跡川越城跡と城址公園のとらえ方や範囲を 明確にする必要がある。
- 3. 史跡川越城跡と城址公園が歴史性を生かしたまちづくりに果たす役割の整理
 - 史跡川越城跡と城址公園が中心市街地とつながり歴史性を生かしたまちづくり に果たす役割を整理する必要がある。
- 4. 城址公園の中での初雁公園の位置付けと役割整理
- 城址公園の中での初雁公園の位置付けと果たすべき役割を整理する必要がある。

初雁公園の整備にかかわる課題

- 1. 初雁公園内の史跡の本質的価値を構成する要素の確認
- 初雁公園内の史跡川越城跡の本質的価値を構成する要素の有無やその現状を把握する必要がある。
- 2. 初雁公園が戦後運動公園として整備された歴史的役割の確認
- 初雁公園は、県下最大の運動公園として計画され、戦後復興のシンボルとして失業対策事業ですすめられてきた経緯を確認する。
- 3. 初雁公園に求められる機能の整理
 - 初雁公園が、中心となって史跡川越城跡を歴史拠点とし、また城址公園を観光拠点として具現化するために求められる公園機能を整理する。
- 4. 市街地の都市公園としての公園機能の確保
- 市街地の貴重な緑のオープンスペースである初雁公園は、都市公園としての公 園機能を確保する必要がある。
- 5. 実現性を踏まえた整備
 - 基本構想での検討は市制 100 周年 (2022 年) を目途としており、初雁公園区域 外は民有地や川越高等学校用地になっている現実もあることから、実現性を踏 まえた整備目標を設定する必要がある。

3. 川越城址整備の基本的考え方

3-1. 川越城址整備の基本的考え方

川越城址整備の基本的考え方は以下のとおりである。

川越城址整備の基本的考え方(城址公園のとらえ方と初雁公園の位置付け)

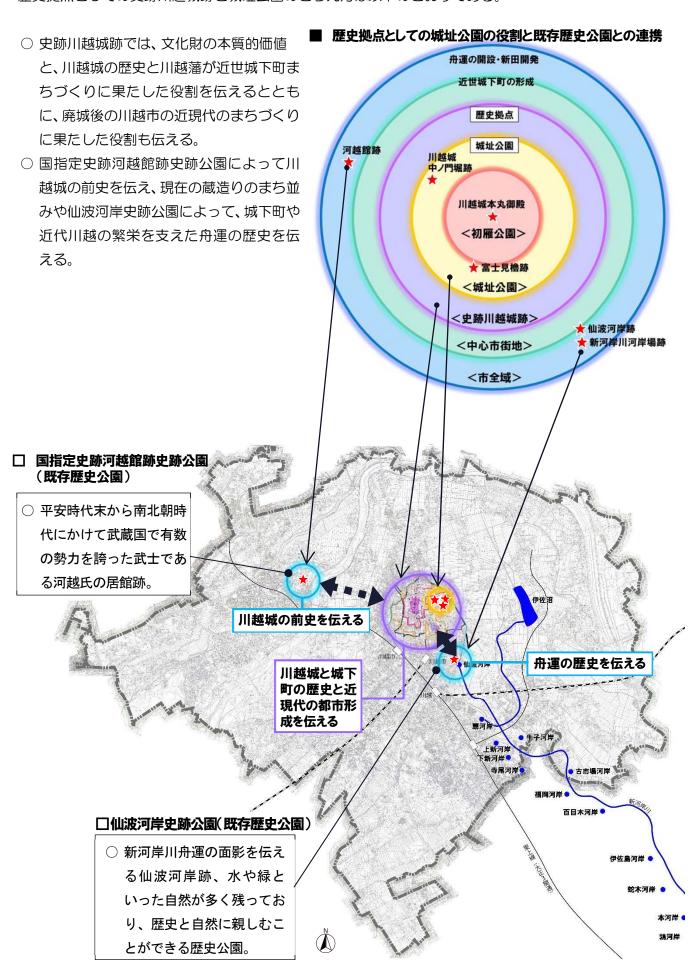
- 1. 史跡川越城跡の本質的価値を守り、活かす。
- 史跡川越城跡の本質的価値の以下の4点を守り、活かす。
 - 中世から近世に至る城の遺構が、良好な状態で地上および地中に遺存して いること
 - 城の鎮守としての三芳野神社と社叢・参道及び周辺の土塁群に城址として の景観を留めていること
 - 国内に2例のみ現存する本丸御殿が史跡内に残っていること
 - 城及び城下町の絵図に記された筆割等が現在でも残っていること

2. 史跡川越城跡を川越市の歴史シンボルとする歴史拠点とし、城址公園によって具現化していく。

- 史跡川越城跡を川越市民のアイデンティティを醸成する歴史シンボルとし、川越城の歴史と 川越藩が近世城下町づくりに果たした役割や、史跡川越城跡が近現代に果たしてきた役割を 伝える歴史拠点とする。その中で、当面、初雁公園と中ノ門掘跡、富士見櫓跡等で構成され るエリアを城址公園と位置付け具現化していく。
- 3. 城址公園が、史跡川越城跡を中心市街地の歴史的文化的遺産とつなげる新たな観光拠点とする。
- 初雁公園と中ノ門堀跡、富士見櫓跡等で構成されるエリアの城址公園を川越の新たな観光拠点として磨き、近世城下町の町割等を基盤とした近現代の町並みを伝え、中心市街地との時間的、空間的回遊性を強める。
- 4. 初雁公園が、歴史拠点となる史跡川越城跡と、観光拠点となる城址公園の中心的な役割を担う。
- 初雁公園が中心となり、史跡川越城跡の遺構の保存・活用と顕在化や、中心市街地との回遊性のシナリオをつくることなどにより、城址公園の骨格をつくり、中ノ門堀跡、富士見櫓跡と連携して展開する。
- 5. 史跡川越城跡の遺構の顕在化を行い、長期的に川越城の総構の周知を図る。
- 史跡川越城跡の遺構が確認できた場合などには、顕在化を図るとともに、城址公園への取り 込みなどを検討し、川越城の全体像としての総構を見て、感じることができるようにする。

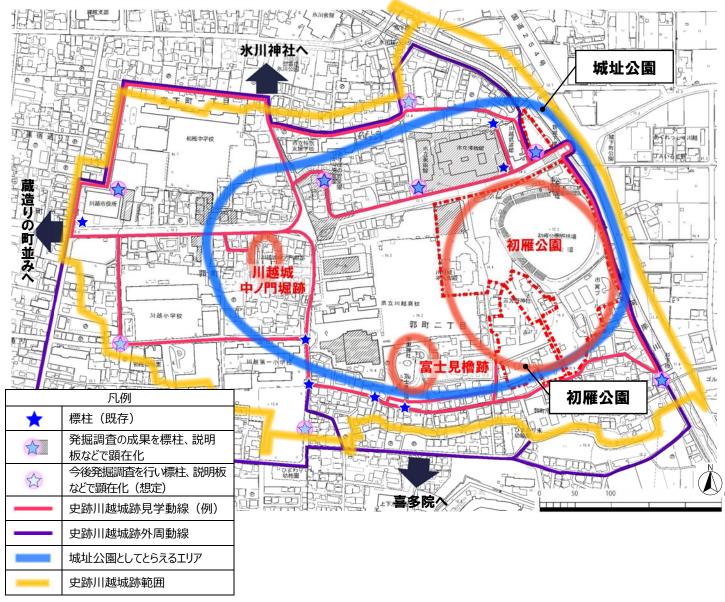
3-2. 歴史拠点としての城址公園

歴史拠点としての史跡川越城跡と城址公園のとらえ方は以下のとおりである。



- 城址公園は、初雁公園をセンターとして、川越城中ノ門堀跡、及び富士見櫓跡との連携により構成されるエリアで概念的な範囲とする。
- 城址公園としては、当面は史跡川越城跡内に設置されている標柱を巡ることなどの見学を推進する。
- これまでの発掘調査の成果を活用し、遺構を顕在化することなどにより、エリアの範囲を拡大させていくとともに、蔵造りの町並み、喜多院、氷川神社方向への誘導を図り、中心市街地との回遊性を高める。

■ 城址公園と史跡川越城跡見学動線イメージ



■ 城址公園の拡大展開イメージ

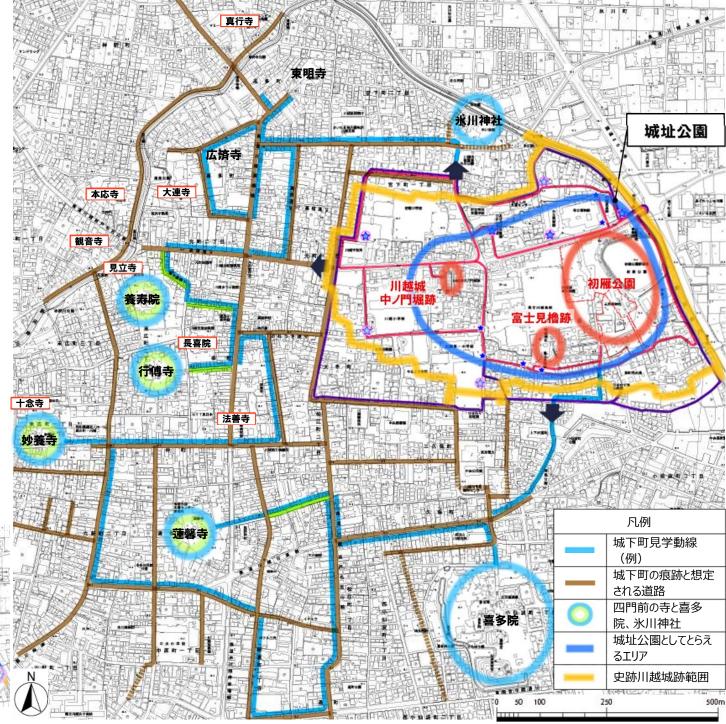


3-3. 観光拠点としての城址公園

観光拠点としての城址公園は以下のようにとらえる。

- 蔵造りの町並みで多くの観光客を集めている中心市街地は、近世城下町を基盤に発展し史跡川越城跡と深く関係しているため、城址公園が、近世城下町の都市形成の歴史を、川越城、川越藩の歴史とあわせて伝える。
- 川越のまちを知り、楽しむためには、川越城、川越藩をテーマとしてまち歩きをすることが効果的であり、このため観光拠点として城址公園が中心となって、このテーマを発信する役割を担う。
- 城址公園にとっても、蔵造りの町並みエリアや喜多院エリアからの回遊性を高めることで相乗効果を 発揮し、更なる集客力の向上が期待される。

■ 観光拠点としての城址公園の役割と城下町見学動線イメージ



4. 初雁公園整備基本計画

4-1. 初雁公園整備基本方針と整備コンセプト

初雁公園整備基本方針と整備コンセプトは以下のとおりである。

初雁公園整備基本方針

- 1. 初雁公園内の史跡川越城跡の本質的価値を守り、活かす。
- 初雁公園内での史跡川越城跡の本質的価値の 4 点を明らかにし、これを守り、市民が川越城、川越藩が川越のまちづくりに果たしてきた役割を知り、学び、体感できるようにする。
- 2. 歴史拠点の中心を担う初雁公園を、歴史公園として再整備する。
 - 初雁公園は、歴史拠点となる史跡川越城跡の中心的役割を担うために、公園種別を都市基幹公園の一つである「運動公園」から、特殊公園の一つである「歴史公園」に位置付けと名称を変更し、歴史公園として再整備し、川越城中ノ門堀跡と富士見櫓跡の他川越市立博物館と連携する。
- 3. 市街地の貴重な緑のオープンスペースである初雁公園を市民の憩いの場としていく。
 - 市街地の貴重な緑のオープンスペースである初雁公園は、都市公園機能を確保し、市民の憩いの場としていくと ともに、災害時には、防災に寄与する施設とする。
- 4. 観光拠点となる城址公園の中心を担う初雁公園を、回遊性を強めるにぎわいの場として再整備する。
 - 初雁公園を新たな川越の入口として、観光客を呼び込み、回遊性を強めていくことで、中心市街地との人の流れをつくるとともに、魅力的なプログラムを提供することで、にぎわいの場とする。
- 5. 将来の状況変化への対応と実現性を踏まえた整備とする。
 - 実現性を踏まえ、短期、中期、長期の段階的整備とするとともに、将来の状況変化にも対応できるものとする。

初雁公園整備コンセプト

時を紡ぎ

川越城・川越藩の 415 年、近世城下町を基盤とした近現代の 150 年の歴史の糸を紡ぎ

時を織りなす

公園を舞台に積層された地歴を 顕在化し、現在から未来に向け て織りなす

時の公園

415年と150年の歴史を再考し、100年先に向けてゆるぎない川越のアイデンティティを築き上げる公園

川越城は、川越藩 17 万石のシンボルとして君臨し、城下町として発展してきた小江戸川越の中心にあって、江戸時代には地域にとって仰ぎ見る存在であった。

明治 4 年(1871)の廃城後の川越城跡には、多くの公共施設が建設され、教育、市民活動の拠点となってきたが、当時の地割等を残し、現在でもその痕跡を示している。一方、初雁公園は、戦後復興のシンボルとして整備され、県下随一の運動公園として市民に開放される中で、川越城本丸御殿を残し、三芳野神社周辺には城址としての景観を今でも留めている。

史跡川越城跡は、中世にはじまり、江戸・明治から現在、そして未来へ引き継ぐ、川越の礎となる市民の財産であることから、川越城本丸に位置する初雁公園は、今、往時の姿を取り戻すべく、新たな一歩を踏み出す。

まず、初雁公園は、史跡川越城跡の文化財的価値を守り活かすとともに、川越城の歴史とともに、川越藩が近世城下町づくりに果たした役割や、史跡川越城跡が近現代の川越のまちづくりに果たしてきた役割を伝える中心的な役割を担う。

また、初雁公園は近世城下町の町割等を基盤とした近現代の町並みや、川越城、川越藩にまつわる歴史的文化的遺産を保有する中心市街地等との時間的、空間的な回遊性を強め、新たな人の流れを生み出す牽引役となる。

川越市の市制 100 周年(2022)は、中世・近世の川越城・川越藩の 415 年の歴史の上に、近現代の政治・経済・教育・文化等の 150 年の営みによるまちの歴史が築かれてきた到達点であることを再認識し、将来人口が減少期に入り、成熟社会への転換が現実のものとなってくる中で、歴史に根差した新しい川越の姿を描く出発点となる。

このため、初雁公園は、川越城・川越藩 415 年に加え、近世城下町を基盤とした近現代の 150 年にわたる歴史の糸を紡ぎ、公園を舞台に積層された地歴を顕在化し、100 年先の未来に向けて、ゆるぎない川越のアイデンティティを築き上げる『時の公園』としての役割を果たしていく。

4-2. 初雁公園利活用計画

時の公園

初雁公園の利活用計画としての体系とプログラム例は以下のとおりである。

時を紡ぎ

- 歴史の糸を紡ぎ

: 史跡川越城跡の本質的価値を伝えるとともに、川越城・川越藩の歴史と近世城下町形成から近現代の川越のまちづくりなどの歴史もあわせて伝える。また、川越市に伝わる伝統芸能なども発信していく。

□ 見学・学習

川越城本丸御殿や川越市立博物館等の活用も含め、史跡川越城跡の本質的価値をはじめ、川越城・川越藩の歴史、近世城下町形成から近現代の川越の歴史の全体像を伝えるガイドのしくみを整え、発信の場を設ける。(プログラム例:総合案内、川越市立博物館見学、川越城本丸御殿見学、土塁、三芳野神社等の見学、公園内の門、土塁、堀跡、道路等城址痕跡めぐり)

□ まち歩き

ガイドのしくみとして、史跡川越城跡の痕跡と中心市街地の川越城関連のコースを歩く。 (プログラム例: 史跡川越城跡の痕跡めぐり、史跡川越城跡と川越城関連まち歩き)

□ 講座

ガイドのしくみや場を活用し、歴史講座を行う。(プログラム例: 史跡川越城跡と城下町を学ぶ講座、子ども向け川越城講座)

□ 人材育成

ガイドのしくみや場を活用し、まち歩きを行う歴史ガイドとして市民ガイドや子どもガイドを育成する。(プログラム例:川越城、城下町ガイド育成、子どもガイド育成)

□ 伝統芸能

地域で伝承されてきた伝統芸能を発信する。(プログラム例:獅子舞、はやし、踊り、 万作、神楽、木遣り等の伝統芸能の紹介と体験、川越まつり会場)

時を織りなす

-現在から未来に向けて織りなす

: 歴史の価値や景観を活かしつつ、川越のまちの魅力を高める場として公園を活用する。 また、市街地の貴重な緑のオープンスペースを、子どもからお年寄りまで様々に活用 できるようにする。

□ イベント、スポーツ大会

歴史的な趣きや公園の立地を活かしたイベントを行う。(プログラム例:流鏑馬、小江戸川越春まつり、川越きものの日、納涼盆踊り大会、節分会、小江戸アートフェスティバル、歴女イベント、剣道大会、弓道大会、川越ハーフマラソン、グランドゴルフ大会、ゲートボール大会)

□ 季節感・風景

低木、草花の植栽により四季折々の季節感を演出するとともに、公園全体での季節感や風景を活かした創作活動の場とする。(プログラム例:低木、草花、写真撮影、絵画・スケッチ、俳句、短歌)

□ 子育て・学習

年齢層毎の遊びや育児のコミュニティなど、子育てを応援するとともに、環境学習の場として活用する。(プログラム例:年齢層毎の遊びプログラム、育児コミュニティ、保育・小遠足、環境学習)

□ 健康

緑に囲まれた空間の中での健康づくりをサポートする。(プログラム例: ヨガ、太極拳、 気功、ウォーキング、ジョギング、まち歩き健康ウォーク、健康サポート)

□ 散策・休憩

心地良さや魅力のある散策・休憩の場を提供する。(例:歴史を感じる道、新河岸川の親水、江戸、明治、大正、昭和、平成の各時代を感じるお菓子や飲み物を提供するカフェ)

4-3. 初雁公園遺構等の保存活用の区分

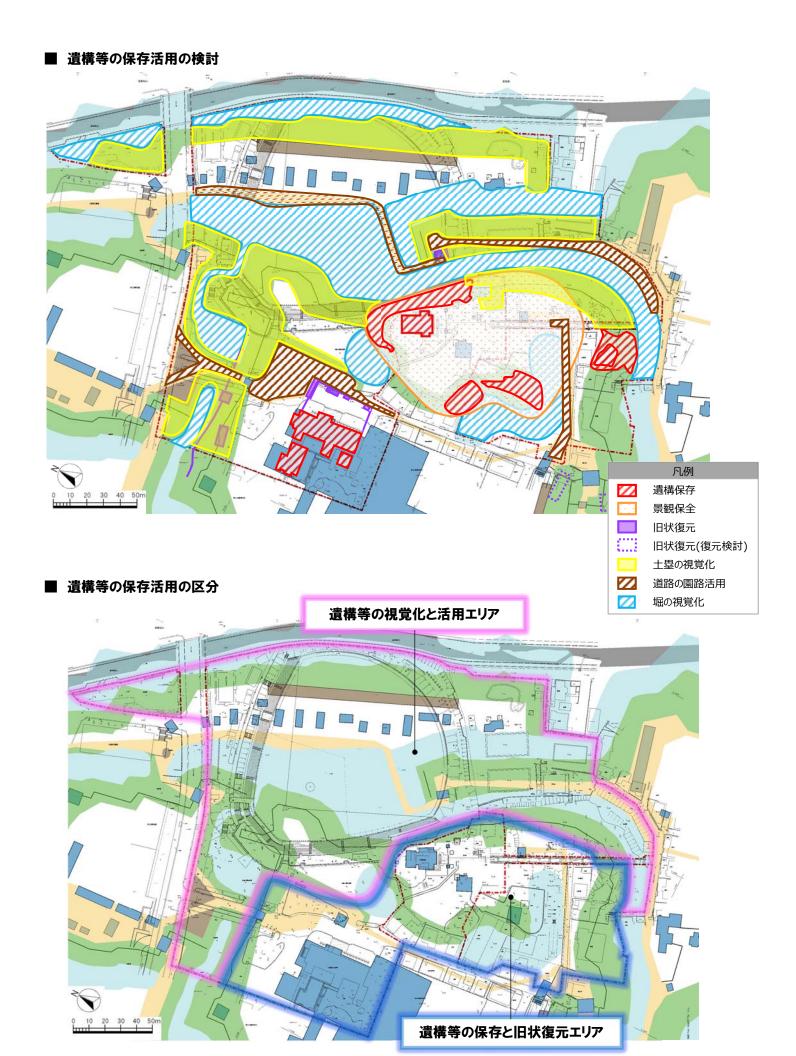
初雁公園内での縄張の区分をもとに、本質的価値を構成する要素の遺構等の残存状況から保存活用の区分を整理すると以下のとおりである。

■ 縄張の区分





出典:川越城模型(川越市立博物館所蔵)の写真に加筆



4-4. 初雁公園整備基本計画

初雁公園基本計画の初雁公園整備基本計画図、ゾーニングと遺構等の保存活用と公園の利活用の考え方、遺構等の見学・学習イメージ、公園の利活用イメージ、園路広場計画、主要建築施設計画、植栽計画及び防災計画は 以下のとおりである。



図 初雁公園整備基本計画図

(2) ゾーニングと遺構等の保存活用と公園の利活用の考え方

ゾーニングと遺構等の保存活用と公園の利活用の考え方は以下のとおりである。

■ ゾーニングと遺構等の保存活用と公園の利活用の考え方

| √⊞⊒E & 1/ - | دانط | 実携学の 但を活用 | 八国の利廷田 |
|---|---|---|---|
| 縄張•名称 | ねらい | 遺構等の保存活用 | 公園の利活用 |
| 本丸 二ノ丸 本丸御殿・ エントランス 広場 ゾーン | 初雁公園の中核となる川越城本丸御殿の 風格を高め、周辺広 場と一体ににぎわい を生み出す。 | 「本丸住居絵図」をもとに玄関の旧状を復元し、かつての本丸御殿入り口部分の景観を復元する。 絵図等から北門、土塁、休み処を推定し、かつての景観を復元する。 絵図に描かれているY字形道路を顕在化する。 上記の保存、復元に伴う文化財的価値を発信する。 | 本丸御殿周辺に空間を広くとることで、本丸御殿の風格を高めるイベント等ができる広場を設ける。 北門への園路沿いにクロマツを植え、生垣で囲うことで誘導効果を持たせ、中心性を高める。 受付・案内、カフェ・売店、便所等を集約した公園の運営とサースのセンター施設を設ける。 シャトルバス乗り場、タクシー乗り場、身障者駐車場を設け、利便性を高める。 |
| 本丸 三芳野神社・ 社叢・参道 ゾーン | 三芳野神社と社叢・ 参道の景観を保全 し、静寂な空間を保 つ。 | 三芳野神社を保存し、文化財的価値を発信する。三芳野神社と社叢・参道の景観を保全する。※上記は三芳野神社との協力連携により行う。 | 神社の見学や散策などの静寂な空間を保つ。※上記は三芳野神社との協力連携により行う。 |
| 本丸 土塁跡・ 学習広場 ゾーン | 旧状のわかる土塁の 遺構を活かした展示 や、遺構等の復元展 示などで学習を促進 する。 | 土塁の旧状のわかる遺構を活かし保存展示し、学習できるようにする。 三芳野神社と一体の土塁群の城址としての景観を保全する。 上記の保存、復元に伴う文化財的価値を発信する。 | 土塁群や堀跡を活かした歴史学習の広場として活用する。 広場の一部で、天神門の復元展示等に活用できるスペースを確保する。 土塁遺構を活かし、土塁の存在を知ってもらい、山野草を観賞できるようにする。 江戸をテーマとした薬草園を設け、薬草を観賞できるようにする。 |
| 本丸 土塁跡・歴史 の散歩道 ゾーン | 「遺構等の保存と旧状の復元エリア」と「遺構等の視覚化と活用エリア」を区分し、本丸の縄張を体感できるようにする。 | ● 土塁の地中の痕跡を確認し、痕跡がある場合は覆土による保存をし、盛土により土塁を視覚化する。 | 盛土による土塁跡上部の園路を川越城を学べる歴史の散歩道として活用する。 解説板やVR・AR (※1) などで川越城の土塁上を歩いているような想像ができるようにする。 土塁の法尻にヤマブキや花を植え、季節感を感じられるようにする。 |
| 堀跡・芝生広場ゾーン | 堀跡を体感できるようにするとともに、 大規模な広場としての利活用を促進する。 | ・ 堀底が残っていると思われるため 覆土を行い保存し、文化財的価値 を発信する。 ・ 堀跡は芝生広場として統一したイメージとする。 ・ 絵図に描かれている道路を園路と して活用する。 | まとまった広場であり様々なイベントやスポーツ大会を行う。 初雁球場の記憶を伝えるために、スタンドの一部を活用する。 イベントやスポーツ大会などに活用できるように、移動設置型の野外ステージを設け移動設置ができるようにする。 藤棚を設けて、季節感を演出する。 災害時の緊急避難場所として活用する。 |

^(※1) VR=仮想現実、AR=拡張現実と訳され、コンピューター技術によりスマートフォン等を通してかつての川越城の想 定画像を紹介できるようにすること。

| 縄張·名称 | ねらい | 遺構等の保存活用 | 公園の利活用 |
|---------------------------|--|--|--|
| 帯曲輪・ 帯曲輪・ 園地 ゾーン | 帯曲輪の縄張が体感 できるようにすると ともに、遊びの広場 としての利活用を促 進する。 | ・帯郭門の調査を行い、旧状を復元し、かつての景観を復元する。・絵図に描かれている道路を園路として活用する。・上記の保存、復元整備に伴う文化財的価値を発信する。 | 保育や小遠足のための広場や遊び のための遊具施設や徒渉池を整備 する。 |
| 新曲輪 新曲輪・ 駐車場 ゾーン | 新曲輪の縄張が体感 できるようにすると ともに、まとまった 駐車スペースを確保 する。 | 曲輪の地下遺構が残っていると思われるため覆土を行い保存する。屏風折の土塁の旧状を確認し、かつての景観を視覚化する。上記の保存、復元整備に伴う文化財的価値を発信する。 | かつて馬場であったことからも駐車場を設ける。臨時駐車場は多目的広場として常時は活用する。災害時の緊急避難場所として活用する。 |
| 新曲輪・親水 | 河川景観を活かし、 新河岸川沿いの散策 路のネットワーク化 を促進する。 | • 屏風折の土塁や堀跡の確認を行い、旧状の視覚化を行う。 | 新河岸川沿いの堀跡を活かして散策路を設け、桜並木の景観を活かす。園路沿いにアジサイ、内側にツバキ等を植栽し、季節感を演出する。 |

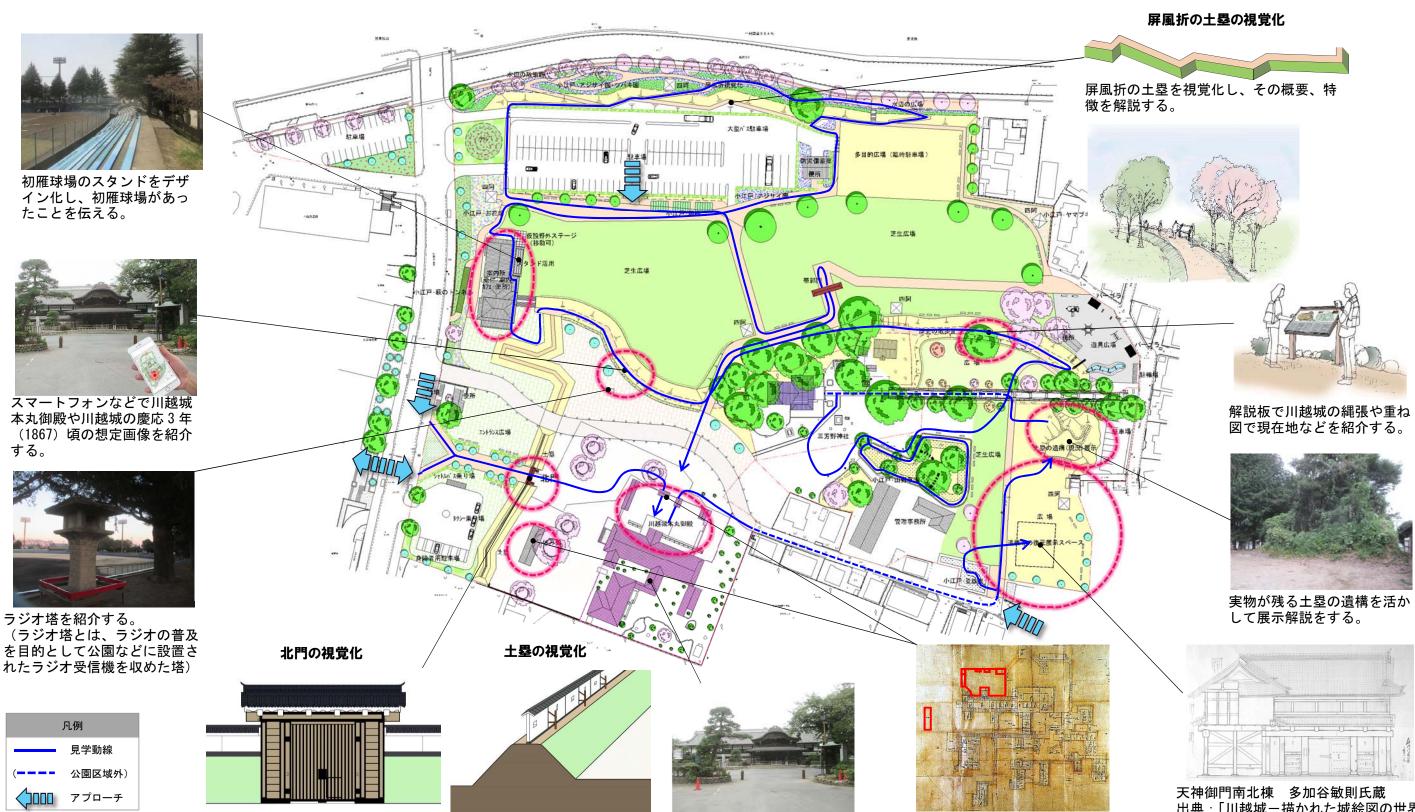


図 初雁公園整備ゾーニング図



(3) 遺構等の見学・学習イメージ

公園内での遺構等の見学・学習のイメージは以下のとおりである。



北門と土塁を視覚化し、その概要、特徴を解説する。

川越城本丸御殿の解説の他、川 越城・川越藩の歴史、近現代の 史跡川越城跡と川越城本丸御殿 の歴史を解説する。

出典:「本丸住居絵図」(船津家蔵) に一部加筆

川越城本丸御殿の玄関口の門、塀等 の史料・文献と発掘調査等により旧 状を復元した形状等を解説する。

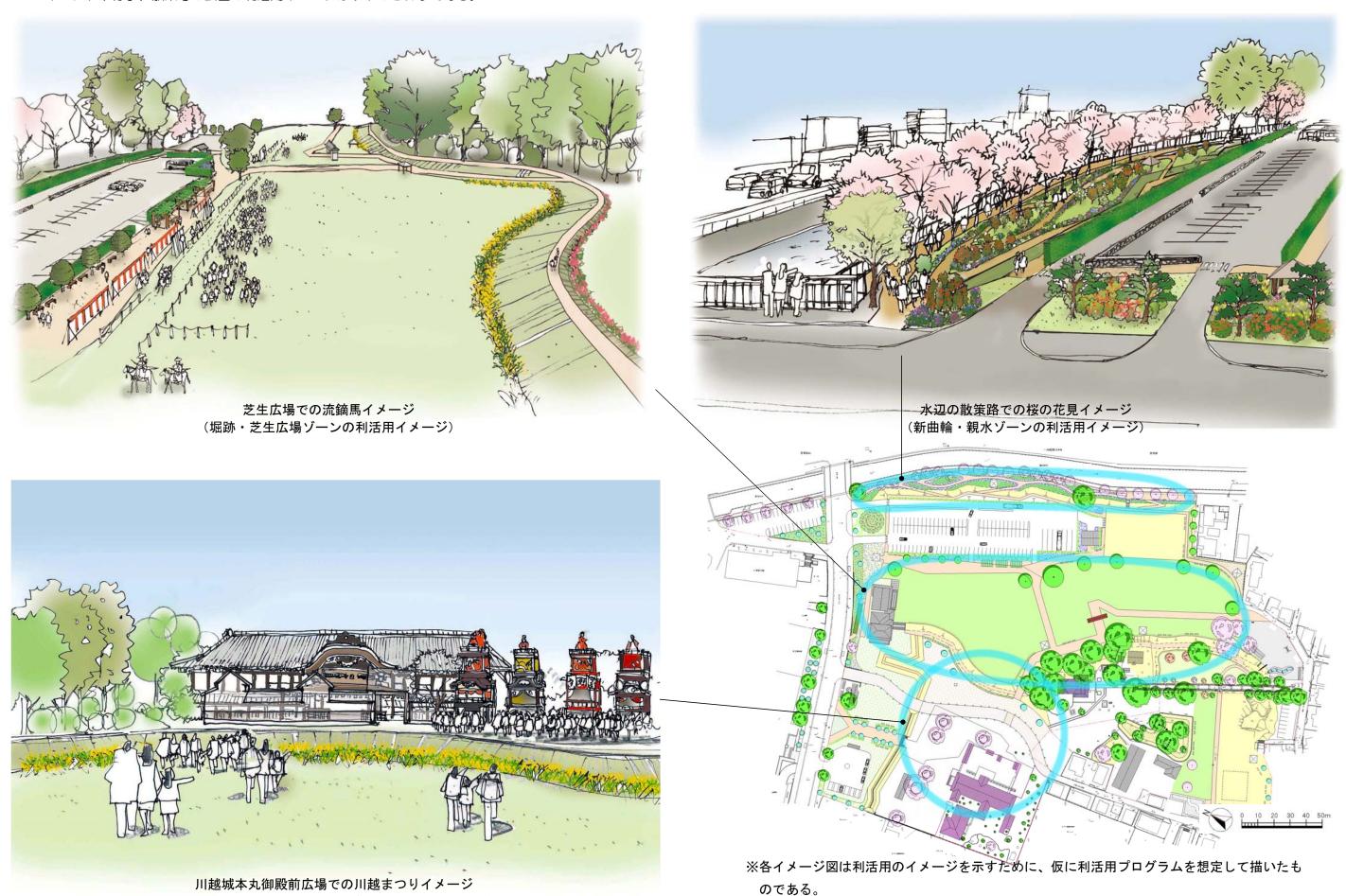
出典:「川越城ー描かれた城絵図の世界 一」平成23年3月 川越市立博物館

付近の市道と民地に存在していたと想 定される天神門の復元展示などの活用 を検討する。

(4)公園の利活用イメージ

イベントや行事、散策等の公園の利活用イメージは以下のとおりである。

(本丸御殿・エントランス広場ゾーンの利活用イメージ)



(5) 園路広場計画

園路広場の基本的な考え方は以下のとおりである。

□ 園路計画

- 歩行者園路(歴史の散歩道含む)は、幅員 1.5~2.5mとし、バリアフリー動線を含み、自然素材 を活かした土系舗装とする。
- 歩行者・管理用兼用園路は、幅員 4.0~7.0mとし、バリアフリー動線を含み、自然素材を活かし た十系舗装とする。
- 付替道路は、幅員 7.0mとし、城址公 園内のため美装化をする。曲線でス ピードを抑制し、道路と広場の境界は 車止めを設置する。

□ 広場計画

○ 川越城本丸御殿前広場は、見学者の出 入りが多く、団体の集合広場やイベン ト時の人のたまり空間となるため、休 み処を設置する。白系砂利等で表層を 仕上げ、一部車輌の乗り入れに配慮し た舗装構成とする。



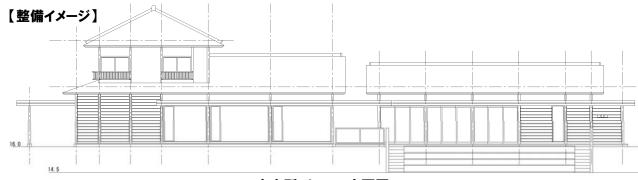
- エントランス広場は、人の出入りの多い広場となるため、待ち合わせや休憩のためのベンチを設置 する。川越城の絵図では、二ノ丸側に位置するため、本丸側と対照的にするために、舗装仕様を分 け、自然素材のテクスチャーのあるコンクリート系舗装とする。車輌の乗り入れに配慮した舗装構 成とする。
- 芝生広場は、まとまった広場とし様々なイベントやスポーツ大会で利用するため、仮設の野外ス テージを設けたり、休憩のための四阿、ベンチを設置する。
- 遊具広場は、地域の貴重な遊び場として利用でき、魅力ある施設として子ども達が安全に水遊びを 楽しめる徒渉池を設ける。パーゴラ、ベンチ、駐輪場を設ける。

(6) 主要建築施設計画

主要建築施設計画の基本的な考え方と整備イメージは以下のとおりである。

二 案内所・カフェ

- 公園全体の運営管理センターとして、公園利用者の受付・案内の他、「イベント」、「スポーツ大会」 などの行事の対応を行う。
- 博物館、美術館等の周辺施設も含めた文化の拠点での「市民の憩いの場」として、カフェ・軽飲食 機能を導入する。
- 芝生広場からの利用も見込んだカフェ・売店機能とトイレ機能を確保する。
- 整備イメージとしては、東側の棟は、オープンカフェとしてモダンなしつらえの棟とし、初雁公園 野球場の記憶の痕跡となるスタンドの一部を取り込む。西側の棟は、東側の棟と一体にガラス張り で明るい雰囲気にする。

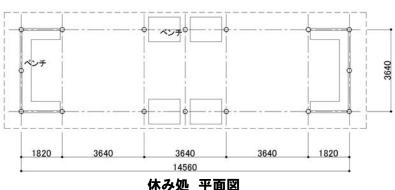


案内所・カフェ 立面図

□ 休み処

【レイアウト例】

- 「本丸御殿住居絵図」(船津家蔵)を もとに、旧状を復元する。
- 川越城本丸御殿の見学者の待合所や 学校等の団体利用での待機、集合、休 憩等に活用する。
- 整備イメージとしては、切妻形式の 屋根と柱だけの開放的な空間とし、 ベンチを最少限設置する。



□ 防災備蓄庫·便所

○ 災害時には防災に寄与する防災備蓄庫を整備し、駐車 場や芝生広場等からの利用のために便所を併設する。





防災備蓄庫·便所平面図

(7) 植栽計画

植栽計画の基本的な考え方は以下のとおりである。

- 江戸時代の川越城下の植栽や城下町川越の植栽などを参考に、城址公園にふさわしい植栽とする。
- 文化財保護の他、これまで公園内で親しまれてきた花木や、景観保全などの観点から現状を維持す る樹林・樹木を抽出する。
- その他既存樹木については、公園整備に支障を及ぼすもの、城址の景観に影響を与えるもの及び生

育状況が不良なもの等は伐採する。

- 新規植栽については、初雁公園利活用計画での季節感を演出し風景をつくるために、城址と調和した樹木と、江戸を感じさせる草花や低木を主に植栽する。
- 新規植栽に当っては、遺構への影響がないように必要な盛土や根を抑制するなどの措置を講ずる。

■ 新規植栽

植栽計画の基本的考え方を踏まえ、2-1(3)に示した初雁公園での文化財保護のあり方を前提に、城址と調和した江戸を感じさせる新たな植栽は以下のとおりである。



※三芳野神社内の既存の樹林・樹木と新規植栽については、三芳野神社と協議を行っていく。

(8) 防災計画

防災計画の基本的な考え方は以下のとおりである。

- 初雁公園は、指定緊急避難場所に指定されており、防災備蓄庫やマンホールトイレを整備する。
- 四阿、ベンチの一部も災害時に寄与できる防災兼用のものを整備する。
- 初雁公園が、防災に資する公園としてより機能を発揮するため、様々な災害に備えて、初雁公園と 武道館等周辺屋内公共施設との連携方法を検討する。



4-5. 初雁公園運営·維持管理方針

初雁公園の運営・維持管理方針は以下のとおりである。また、初雁公園の運営・維持管理のねらいと、各主体と運営・維持管理方針との関係を示す。

1. 初雁公園が城址公園の中心として、史跡川越城跡の学習の場の中核的役割を果たす。

- 初雁公園内で見学動線と見学ポイントを設定し、史跡川越城跡の本質的価値を学び理解し、その他近現代の歴史的役割を知ることができるようにする。
- 初雁公園を含む史跡川越城跡のまち歩きや講座、人材育成などの史跡川越城跡のプログラム運営については、博物館や関係部署と連携し進める。

2. 初雁公園を舞台に市民が主役となって川越のアイデンティティを築き上げていくために、市民参画を進める。

- 初雁公園利活用計画では、プログラムの多くがその運営体制として、市民の関係団体、グループなどが関わることで成り立っている。このため、市民が公園の運営に主体的に関わっていくしくみづくりについても検討する。
- 公園の維持管理についても市民の参画が期待されるものも多く、活動拠点としての管理事務所の利用なども検討する。

3. 初雁公園が城址公園の中心として、回遊性を強めにぎわいを創出する場としての役割を果たす。

- 初雁公園の利用者は、市内の公園利用者や川越城本丸御殿入館者とともに、立ち寄り観光客も多く 見込まれている。このため、受付・案内やイベント、スポーツ大会などの行事への対応の他、カフェ・ 売店やトイレ・休憩など多岐に渡るサービスを提供する。
- 初雁公園から城址公園、中心市街地への回遊性を強めるための連携も積極的に進める。

4. 初雁公園が多様な運営管理へ対応するために、持続発展的にマネージメント力を高めていく。

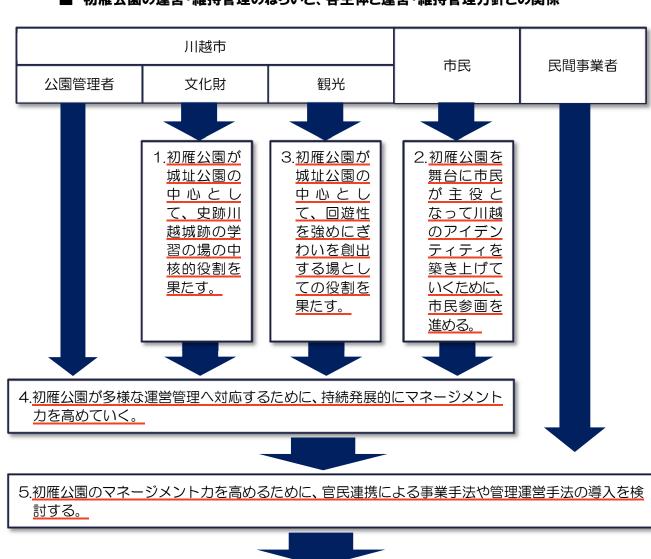
- 初雁公園は、歴史公園であるとともに、市街地の都市公園でもあり、更に観光拠点としての役割も担うことより、多様でかつ質の高いサービスが求められる。
- このため、民間のノウハウ活用なども含め、持続的発展的に公園のマネージメント力を高めていく 必要がある。

5. 初雁公園のマネージメント力を高めるために、官民連携による事業手法や管理運営手法の導入を検討する。

- 公園の管理運営の活性化やきめの細かいサービス提供などのために、民間のノウハウを活用する指 定管理者の導入や公募設置管理制度 (P-PFI) の導入などを検討する。
- 市民参画や民間活力の導入に当たっては、初雁公園として望ましい官民連携のあり方と、そのため の最適な事業手法や管理運営手法を検討する。
- (※1) P-PFI: 平成 29 年の都市公園法改正により新たに設けられた、飲食店、売店等の公園利用者の利便の向上に資する公募対象公園施設の設置と、当該施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園利用者が利用できる特定公園施設の整備・改修等を一体的に行う者を、公募により選定する「公募設置管理制度」のこと。

出典:「都市公園の質の向上に向けた Park-PFI 活用ガイドライン」 平成 29 年 8 月 10 日 国土交通省 都市局 公園緑地・景観課

■ 初雁公園の運営・維持管理のねらいと、各主体と運営・維持管理方針との関係



民間のノウハウ活用 指定管理者制度の検討 P-PFI^(※1)の活用 市民参画 運営・維持管理業務を指定 カフェ、売店等の 市民参画による公園管理、 川越市 管理にすることにより、公 収益施設を P-PFI イベント等の企画運営 園管理の一元化を図り、業 で整備、管理する 市民の初雁公園、川越城址 務の効率化と維持管理費 公園管理者 ことにより、賑わ にかかるアイデンティ 用の縮減を図り、更に積極 いを創出するとと ティの醸成 文化財部局 的な自主事業の企画によ もに、収益の一部 •市民団体のノウハウの活用 観光部局 り、賑わいを創出し、収益 を公園の管理に還 •市民参画による管理費の の増加を図ることを検討 元する。 縮減 する。

運営・維持管理のねらい

市民参画や民間活力の導入による賑わいの創出、魅力の向上、費用の縮減

5. 初雁公園及び川越城址の段階的整備

初雁公園及び川越城址の整備については、短期、中期、長期の段階的整備とし、中期の整備で新しい初雁公園の全面的な供用開始を目指す。各段階での目標と整備内容は以下のとおりである。

| | 短期 (4年) | 中期(10年) | 長期 |
|------------------------|--|---|--|
| 年次 | 2019 年~2022 年 • 市制 100 周年を目標年次とす る。 | 2023 年~2032 年 • 初雁公園の全体整備の年次とす る。 | 2033 年~ • 市制 100 周年から次の 100 年に向けた基本姿勢を示す。 |
| 川越城址 整備の目標 | ・ 史跡川越城跡の地上遺構や城址公園に関する痕跡の情報発信、見学などで、市民の関心を高める。・ 初雁公園をセンターとして川越城中ノ門掘跡と富士見櫓跡と連携した城址公園を発信する。 | 史跡川越城跡のその他の遺構の 顕在化を図り、更に城址公園を 拡大展開する。 | 史跡川越城跡全体をネット ワーク化し、発掘調査等の 結果の内容を踏まえた上 で、川越城の総構が視覚で きるような整備を推進す る。 |
| 川越城址の 整備 | 初雁公園の本丸御殿周辺の整備を行う。富士見櫓跡を安全に見学できるように環境整備を行う。城郭等をめぐるルートを設定し、サイン等の整備を行う。 | 初雁公園について基本的な公園整備を完成させる。 富士見櫓跡の整備を行う。(※1) 遺構の発掘調査等の結果等を基に、サイン等の増強を行う。 | 帯郭門等の復元整備を行う。 回遊路の美装化等の整備を行う。 公有地における城址公園化や遺構についてサイン等の増強を行う。 VR・AR技術等の活用に伴う整備も行う。 |
| 初雁公園 整備の目標 | 歴史拠点の中心を担う初雁公園 の中核となる川越城本丸御殿の 風格を高め、歴史公園への舵を きり、市民の関心を高める。 | 運動公園機能を移転・廃止し、 歴史公園としての基本的な公園 整備を完成させる。市民が運営に主体的にかかわっていく。 | 川越城址のセンター機能を 強め、川越城の総構の周知 を図る。発掘調査の成果の反映や外 部条件の変化に応じた整備 を行う。 |
| 初雁公園 整備 | 本丸御殿玄関の旧状の復元と、 北門、土塁の景観復元により本 丸御殿周辺の趣きを整え、北門 周辺も暫定整備する。 | 運動施設を移転・廃止し、短期整備を除く公園全体の整備を行う。【新初雁公園の全面的供用開始】 | • 帯郭門等の復元を行う。 |
| 初雁公園整 備に必要な 調査設計 | 川越城本丸御殿玄関廻り周辺の遺構調査を行う。^(※2) 北門及び周辺土塁跡、堀跡、道路等の遺構調査を行う。^(※2) 市道付替に伴う遺構調査を行う。^(※2) 市道付替設計を行う。 短期整備区域の本丸御殿・広場ゾーンの基本実施設計を行う。 野球場、プールの移転先等の検討を行う。 | 野球場、プールの移転等を行う。 帯郭門及び周辺遺構調査を行う。 土塁跡、堀跡、新曲輪、帯曲輪、本丸の曲輪跡及び周辺道路等遺構調査を行う。(*2) 天神門及び周辺遺構調査を行う。(*2) 中期整備区域の基本・実施設計を行う。 | 外部条件の変化に応じた各種遺構調査を行う。^(※2) 外部条件の変化に応じた整備の基本・実施設計を行う。 |
| 必要な 体制整備 | 川越城本丸御殿、三芳野神社、 川越城中ノ門堀跡、富士見櫓跡 を含めたパンフレットの作成等 基礎的な情報発信を行う。川越城をテーマとしたガイドの 育成を行う。ガイドのしくみづくりと情報発 信の場の検討を行う。 | ガイドのしくみと情報発信の場が効果的に機能発揮できるような体制整備を行う。川越城をテーマとしたガイドの育成を行う。VR・AR技術など見学・学習からまち歩きまで活用できるしくみの検討を行う。 | VR・AR 技術等の活用によるツールの開発を行う。VR・AR 技術等を活用する。 |

- (※1) 富士見櫓遺構については、遺構である櫓台の地山が削られている現状を踏まえ、櫓台と富士見櫓の復元のあり方とその方法について、比較検討した上で進める。
- (※2)復元や整備に当っては、発掘調査等により遺構を確認した上で進めることより、発掘等の状況によっては、 想定した復元や初雁公園整備基本計画図についても見直しが必要になる場合もある。